

ビッグ・イシュー販売員報告

(第五回)

路上人生

文章

光富紳弥



京都の秋も今年最後の時代祭と共に終わりを告げようとしている。これから凍えるほど厳しい冬がまっています。私が京都で路上人生を送る事になった経緯に付き、文書に書く事に決めました。私は福岡県博多の中央魚市場で働いていました。配送の仕事が多く、朝早くに博多駅の近くの店へ配送していた時に、車のトラブルで傷害事件を起こして留置所に入る事になり一日の間入所、その後と検察庁から起訴され福岡拘置所に収監されました。拘置所には、九〇〇人の未決の人が収監されています。私が収監された部屋には六名の人が入っており、ヤクザ、万引、殺人者、強姦の罪を犯した人達が入っており、なかなか最初は馴染めなかったが、いろいろな話をしていくと威圧感はなく生活していました。拘置所内の規則は思ったほどなく、朝六時起床、七時朝食が終わり点呼、

の保証人が立てられずアパートを出るはめになり仕事もやめる事になった。又、寝る場所がなく考えている時、以前ビッグイシュー販売のことを思い出し、河原町通六条にある交流館に行き、販売の許可をもらい、河原町四条通高島屋デパート前で販売となった。初めは人通りが多く、道行く人達の興味深げな視線が気に入りやってくる自信がなくなり、いろいろ考えましたが、本を購入される方々から励まされ、お茶の差し入れ、弁当など多くいただいたりして、ガンバラないといけないと思ひ、毎日ストリートマガジン販売に力を出しています。私の売場の付近では若者達がチャリ配り、キャッチセールスなど不条理の世界であり、毎日変化のある場所でもあります。ストリートマガジンの売れ行きもよく、毎日の食事、風呂などの生活代金など売上金でまかないが少なからず貯金もでき、安定した毎日を送っています。毎日寝る所にも変化があり一ヶ月間の泊まる場所は、京都大学の吉田寮が一四日間、下京区の中央保護所に七日間入所します。保護所には、三食の食事、風呂、洗濯、娯楽室、テレビなどがあり安定した生活ができます。保護所には毎日四〇名くらいの野宿者の人達が入りしています。京都には野宿者の人達に食事を与える教会などが多くあり、働かなくても食事が与えられ、下京区役所の二階に行けば、パン牛乳などがもらえます。だから京都にいる野宿者の人達が仕事を見つけて働こうという精神がなくなり、毎日を何もしないで生きている人が多く見られます。私はストリートマガジンと出会いこの仕事の楽しさや苦勞などの経験を覚える事によって今後の私の生きる道を見つけ、生活の安定と、向上心に向かって生きて行く事になると思ひます。京都に上京して約三年間になり、私の五三年の人生をふりかえると、福岡で生まれて高校卒業、東京にて三年間働き福岡に帰って酒場の配送係一六年、福岡魚市場一三年間、毎日安定した生活を送っていました。傷害事件を起こして人生が百八〇度かわりましたが、人間生きて行くためには、笑顔と前向きな姿勢で生きていけばいい事がある。

編集後記

「なにわ路情」発行は皆様の「厚意に支えられています」一年間の「寄付報告と御礼」

「なにわ路情」は、財源不足のため八号（〇四年八月発行）より、年六回から四回へ発行回数の削減せざるを得なくなりましたので、発行継続を目的に、九号（〇四年一月発行）より読者の皆様からご寄付を、企業様からの広告を募ることにいたしました。それ以来、今号で一年を迎えましたので、皆様にご寄付の報告をさせていただきます。〇四年一月より〇五年一月までに、個人・団体様から延べ七件、四万六千五百円、企業様から延べ九件、四万五千円の収入を得させていただきました。また、編集スタッフより一〇万八千円、編集スタッフの大学教員の獲得助成金から三万九千五百円の提出があり、総額一三六万九千五百円の収入となりました。つまり、収入の三〇%はご寄付、三三%は広告料、合わせて六〇%以上が皆様からのご厚意となっております。編集スタッフ一同、深く感謝をいたしております。一方、「なにわ路情」の発行経費は、毎月七千部の印刷費が一万円、有償ボランティア（編集・デザイン・原稿執筆）支出が七万円、全国各地の支援者や行政・マスコミ（二六七件）への郵送費が四万円、合計二二万円となっております。九号から今号までの五回発行で約一三〇万円を支出いたしました。以上のように、皆様からの「寄付・広告料」により「なにわ路情」は支えられております。何ぶん自主財源が少ないため、将来の継続見込みも不確定なままではございますが、一号でも長く、野宿生活者支援のための、そして野宿者・元野宿者による情報や意見発信のための「なにわ路情」の発行に、編集スタッフ一同さらなる努力を続けてまいります。読者の皆様方からの、引き続きましてのご協力を、どうか宜しくお願い申し上げます。（付）



ホームレスの仕事をつくり自立を応援する、ビッグイシュー日本です。雑誌販売に興味ある方は下記までお問合せ下さい。

■連絡先：06-6344-2260
■住所：大阪府北区堂島2-3-2堂北ビル4F



くろし応援室／佐々木敏明

これまでの仕事づくりをふりかえって

明けましておめでとうございませう。またまたきびしい寒さで新年を迎えてしまいました。お元気で暮しですか？今年こそ小さな夢から実現していきませんか。おなじみの役立たず新聞「なにわ路情14号」をお届けいたします。失業者の仕事づくりをはじめ三年以上になりました。思えば西成公園緊急避難所・自立支援センター大淀・西成・大淀寮など施設利用者一五〇名以上の人たちの協力をえて公園美化清掃（〇二～〇四年）を受けもち、三公園でみんなと一緒に作業をしたことがはじまりでした。この作業には施設利用者の参加が多く、本来の野宿生活者たちが少なかったことから、〇三年には雇用協力会社を発掘し、現場から通勤もOKのフルタイムで仕事が出来る仕組みをつくりはじめました。これまで雇用の協力会社は四社になり、ほかに西成を中心とした地域商店街や団体の雇用も引き

多くの人が理解と関心を

A社との協力はもっとも古く二年六ヶ月です。ここで当初から勤務している人や、一年六ヶ月以上になり、勤続している人の数は八〇%以上になりました。B社とは〇五年五月から協力がはじまりますが、就労する人たちの好感度はいいようです。又地域商店街や団体などの協力も積極的に進めてきました。地域のスーパー清掃を紹介し採用後三年目になる人や、年金生活者、生活保護者の生きがいづくりも進

めながら、地域高齢者・障害者の配食サービスで宅配一年目を経過した人たちがいます。ニートと呼ばれる人たちの活用もうまく展開しています。

仕事ではなく夢を

私たちは「仕事さえあればどういでもなる」というような言葉を今まで幾度も聞かされました。仕事第一などという価値観もなお根深く生きています。仕事を大切にすると、自分が幼かった頃の夢をもう一度記憶の底から引っ張り出し、仕事は「夢づくり」のきっかけにすぎないという事を思い出してほしいのです。もちろん結果として「夢」が自分の仕事になったとしたら素晴らしいよね。今年はそんな「夢」実現のきっかけづくりとなる仕事をさがします。その時は皆さんにまたお伝えしますから。

「なにわ路情」がめざすもの

- 野宿生活者の生活や声をとりあげ、ともに考える新聞です。
- 脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりを心がけています。
- 今までのこと、そしてこれからのこと、いっしょに考えていきませんか。

表1 雇用協力企業など面接件数の割合

会社団体名	面接件数	就労定着数	定着率
A社	74	51	69%
B社	11	7	64%
C社	9	0	0%
D社	7	0	0%
地域・商店	8	5	63%
計	109	63	58%

表2 退職状況

会社団体名	通走	自己都合	他社勤務	病気	その他	退職計
A社	14	1	6	1	1	23
B社	2	2	0	0	0	4
C社	1	6	2	0	0	9
D社	1	4	2	0	0	7
地域・商店	2	0	1	0	0	3
合計	20	13	11	1	1	46

紙面

1	たしかな夢をふくらませるために	3	一〇・三〇野宿生活者支援統一行動
2	みなさんは「司法書士」という職名を聞いたことはありますか？	3	生活保護による地域生活への移行
2	石綿問題はこれからが勝負！	4	ビッグ・イシュー販売員報告（第五回）
2	セーブ・ザ・ホームレス・コンサート	4	編集後記

発行元
なにわ路情編集局
〒530-8090 大阪中央郵便局留
「なにわ路情編集局」係
tel 080-3767-7989
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp
http://www.naniwa-rojo.com/
郵便振替口座番号
00900-5-222740 なにわ路情編集局

編集協力（有）In-visible（インヴィズブル）http://www.in-visible.net/（有）地域・研究・アシスト事務所http://www.or-asist.net/

望や、希望や、あるいは語らいや、笑いや、怒りを、開放的に伝えてゆくような仕組みを地域でつくってゆく必要を大いに感じています。なにわ路情もそのひとつの手助けになればと願っています。(み)